

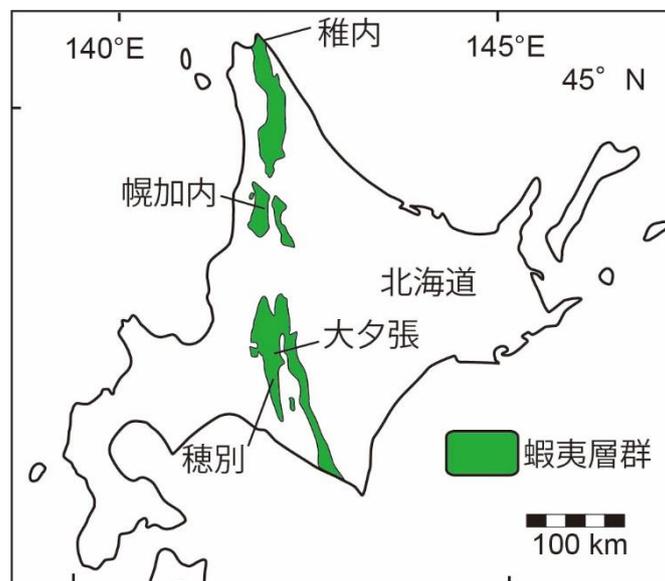
北海道から大型の新属新種異常巻きアンモナイト発見

ポイント

- ・北海道の白亜系から発見したアンモナイトを新属モシリテスと命名した。
- ・北海道を代表するアンモナイトとみなし、アイヌ語で静かな大地や北海道（アイヌモシリ）を意味する「モシリ（mosir）」を学名につけた。
- ・モシリテスにはモシリテス・ミラビリス（アルビアン期後期からセノマニアン期前期。むかわ町穂別・大夕張・幌加内・稚内・アラスカ）とモシリテス・サーペンティフォーミス（アルビアン期後期。大夕張・サハリン）の2新種が存在することを明らかにした。
- ・モシリテスは北太平洋地域に固有の種類で、このことは当時の海洋の古環境などを考えていく上で重要な証拠の一つである。

概要

中生代白亜紀の中ごろから後期にかけては、非平面螺旋巻きで、“巻きのほどけた”「異常巻きアンモナイト」と称されるアンモナイトが繁栄しました。その中の1グループであるアンキロセラス亜目アニソセラス科は4列のイボを持ち、緩く巻いたらせん状の殻に続いて、一平面上で直線もしくは緩い曲線状のシャフトとなることなどが特徴で、ヨーロッパやアフリカ、北海道、アラスカ、北米など世界中から産出することが知られています。



北海道蝦夷層群の分布図とモシリテス産地

国立科学博物館の重田康成グループ長（地学研究部 環境変動史グループ）を中心とする研究グループは、伊豆倉正隆氏（札幌市 化石資料はむかわ町穂別博物館に収蔵）と坂井俊博氏（旭川市 化石資料は国立科学博物館に収蔵）が北海道で新たに採集・寄贈した化石と、過去に研究されてきた化石を対象として研究を進めました。

その結果、北海道のむかわ町穂別や大夕張などから産出しているアニソセラス科2種類

が1新属2新種であることを明らかにしました。

新属のモシリテス(*Mosirites*)は、大型で緩く巻いた立体螺旋に続き、隙間の空いた平面巻きの殻をもつことが特徴です。殻表面には細かい肋（殻の成長方向にほぼ直行する線状の凹凸）と4列のトゲ状のイボが発達します。

一つ目の新種はモシリテス・ミラビリス(*Mosirites mirabilis*)で、成長初期の立体螺旋巻きの部分と、成長後期の隙間の空いた平面巻きの巻軸が大きく斜行することが特徴です。白亜紀のアルビアン期後期からセノマニアン期前期のむかわ町穂別、大夕張、幌加内、稚内から発見されました。先行研究で知られていたアラスカ産の標本もこの新種であることが明らかになりました。種の基準となるホロタイプ標本はむかわ町穂別産のもので、伊豆倉正隆氏が採集・寄贈（穂別博物館収蔵）したものです。



10 cm

新属新種 モシリテス・ミラビリス

二つ目の新種はモシリテス・サーペンティフォーミス (*Mosirites serpentiformis*) で、モシリテスの中で、成長初期の立体螺旋巻きの部分と、成長後期の隙間の空いた平面巻きの巻軸が同一であることが特徴です。モシリテス・ミラビリスよりも肋が細かいことも特徴です。白亜紀のアルビアン期後期の夕張から産出します。先行研究で知られていたサハラ産標本もこの種に鑑定しました。種の基準となるホロタイプ標本は夕張産（三笠市立博物館収蔵）のもので、松田昇市氏（岩見沢市）が採集・寄贈されたものです。



10 cm

新属新種 モシリテス・サーペンティフォーミス (写真提供：三笠市立博物館)

化石帯区分

1 億 50 万年前	白亜紀	セノマニアン期 前期	アコンプソセラス・レネビエリタイ帯
			マンテリセラス・ジャポニカム帯
			マンテリセラス・サクシビイ帯
			ストリツカイア・ジャポニカ群集帯
			グレイソニテス・ウルドリッジイ帯
	アルビアン期 後期	モルトニセラス含有層	



モシリテス 2 種の産出した時代

モシリテス属は、産出した層準からモシリテス・サーペンティフォーミス-モシリテス・ミラビリスの祖先-子孫関係が推測されています。さらにモシリテスの祖先は、北米・オレゴンのアルビアン期後期から知られているアニソセラス・メリアミ (*Anisoceras merriami*) と推測されます。つまり、モシリテスはアルビアン期後期の北太平洋地域で出現し、セノマニアン期前期まで北太平洋地域で生息していたと考えられます。

北海道やサハリンといった北西太平洋のアンモナイトは、アルビアン期後期には汎世界

的な種類とこの地域に固有の種類が存在し、セノマニアン期前期には北西太平洋（もしくは北太平洋）に固有の種類が多くなる傾向が見られます。今回、研究したモシリテスは北太平洋地域に固有であることが分かったので、これらアンモナイトの分布域から当時の古環境（地理的な障壁や地質学的なイベントの有無）を考えていくうえで重要な証拠になっていくと考えられます。

学名の由来

モシリテス (*Mosirites*) は、アイヌ語で（静かな）大地の、もしくは北海道（アイヌモシリ *aynu mosir* が北海道の意）を意味するモシリ (*mosir*) とギリシャ語で石を意味し、アンモナイトの学名の接尾語に使われることの多いイテス (*-ites*) に由来する。

ミラビリス (*mirabilis*) は、ラテン語で素晴らしい、驚くべきという意味の語。北海道産のアンモナイトでミラビリスというと、ニッポニテス・ミラビリス (*Nipponites mirabilis*) が思い起こされますが、本種もニッポニテスと同様に迫力のある種類であることから、この種小名を付けました。

サーペンティフォーミス (*serpentiniformis*) は、ラテン語でヘビを意味するサーペンス (*serpens*) と、ラテン語で形を意味するフォルマ (*forma*) に由来する。

出版された論文

著者：重田康成・西村智弘・伊豆倉正隆

論文タイトル：*Mosirites*, a new Cretaceous heteromorph ammonoid genus from Hokkaido, Japan.

出版論文：*Paleontological Research*（日本古生物学会欧文誌），

doi:10.2517/PR220032

オンライン出版日：2023年6月23日

お問い合わせ先

むかわ町穂別博物館（〒054-0211 北海道勇払郡むかわ町穂別 80-6）

学芸員 西村 智弘（にしむら ともひろ）

TEL 0145-45-3141 FAX 0145-45-3141 メール tnishimura@town.mukawa.lg.jp

URL <http://www.town.mukawa.lg.jp/1908.htm>